

登録コード:MH634100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	運動学【理作20M以降】 Kinesiology		
担当教員	百瀬 公人 佐賀里 昭		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法専攻/1学年 作業療法専攻/1学年 後期 火曜・4時限 火曜・5時限		
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 1 1 講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標	
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	人の運動について、物理学、解剖学、生理学などの知識をもとに理解する	
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	健常者や障害者の身体運動を分析できる知識を得る	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	身体運動に関する基本的知識を得る	
	MH25カリ・保健・理学, MH25カリ・保健・作業, MH23カリ・保健・理学, MH23カリ・保健・作業		
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	健常者や障害者の身体運動を分析できる知識を得る	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	授業においての疑問を主体的に解決できる技能を身に着ける	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿、キャリア		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、人間の身体部位の構造とその動作・活動原理を学習します。理学療法・作業療法に共通した基礎医学・工学的原理をもって作業・運動を理解し、臨床で運動障害の評価・分析手法を実施するための基礎知識・技術となるよう学習を進めます。授業の一部では学生による発表を通して、知識の生理をしてもらいます。 本授業は、人間の運動や活動について、1年前期に学ぶ「基礎力学」、「系統解剖学」、「生理学」などの知識を前提とし、1年後期の同時期に学ぶ「病理病態学」、「生理学実習」、「肉眼解剖学」の内容と相補的に学んでいくことになります。また、2年で学ぶ「整形外科学」などの基礎医学分野や3年で学ぶ疾患別理学療法や作業療法、ならびに4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医療機関における理学療法士・作業療法士および、運動学に関する研究者としての実務経験を生かして講義を行います。		
授業計画	第1回 (9月29日) 生体力学(小テスト:頸部の筋と予習) 第2回 (10月6日) 肩甲帯・肩関節(小テスト:肩関節の筋と予習) 第3回 (10月13日) 生体力学(小テスト:体幹の筋と予習と復習) 第4回 (10月20日) 肩甲帯・肩関節(小テスト:肩関節の筋と予習) 第5回 (10月27日) 体幹の構造と動き(小テスト:頭部の筋と予習と復習) 第6回 (11月10日) 上腕・肘関節・前腕(小テスト:肘関節の筋と予習) 第7回 (11月17日) 体幹の構造と動き(小テスト:股関節の筋と予習と復習) 第8回 (11月24日) 中間試験(前半)・前半まとめ 第9回 (12月1日) 股関節の構造と動き(小テスト:膝関節の筋と予習と復習) 第10回 (12月8日) 手関節・手指(小テスト:手関節・手指の筋と予習) 第11回 (12月15日) 膝関節の構造と動き(小テスト:足関節の筋と予習と復習) 第12回 (12月22日) 手関節・手指(小テスト:手関節・手指の筋と予習) 第13回 (1月5日) 足関節の構造と動き(小テスト:体幹の筋と予習と復習) 第14回 (1月12日) 歩行 (小テスト:股関節の筋と予習と復習) 第15回 (1月19日) 歩行・走行(小テスト:膝関節の筋と予習と復習)・授業アンケート 第16回 (1月26日) 期末試験(後半)		
授業の進め方	授業は講義形式とグループ発表形式とします。グループ発表とは、グループが授業で運動学の講義を90分行うことです。グループ発表を行う回と担当学生は、第1回の講義で指示します。 試験の範囲は授業で解説したところだけでなく、教科書の全範囲から出題します。		
テキスト, 教材, 参考書	教科書 ・Donald A. Neumann著:筋骨格系のキネシオロジー, 医試薬出版 ・坂井建雄監訳:プロメテウス解剖学コアアトラス第3版, 医学書院 配付資料 ・必要に応じて講義時に配布 参考書 ・中村隆一他著:基礎運動学, 医歯薬出版 ・中村隆一編:臨床運動学第3版, 医歯薬出版 ・金子丑之助他:日本人体解剖学(上巻), 南山堂		

成績評価の方法	毎回の講義中の小テスト30%、中間試験25%、期末試験25%、発表10%、質問感想の視聴10%を総合して判定します。 中間試験は第8回（11月24日）に行います。 毎回行う小テストは基本的知識の習得についての評価を行い、中間試験や期末試験ではそれらの基本的知識をもとに応用する応用問題にて学習の到達を評価します。 中間試験は第1回から第7回までの範囲、期末テストは第9回から15回までの範囲を試験の対象とします。
成績評価の基準	小テスト、中間試験、期末試験の結果をもとに、次の基準で評価します。 秀(90-100点)：授業の達成目標水準から見て卓越している 複雑な応用問題が解ける 優(80-89点)：授業の達成目標水準よりかなり上にある 簡単な応用問題が解ける 良(70-79点)：授業の達成目標水準よりやや上にある 応用知識がある 可(60-69点)：授業の達成目標水準にある 基礎知識がある 不可(0-59点)：授業の達成目標水準より下にある 基礎知識がない
事前事後学習の内容	事前学習について 毎回授業の始めに、その日の内容についての予習の小テスト、および筋の起始、停止、作用、神経支配について的小テストを実施します。筋の試験範囲については授業計画に記載したとおりに行います。 事後学習について 毎回授業の始めに、前回の内容についての復習テスト、前回の筋テスト範囲の復習テストを行います。授業の最後に質問を受け付け、それに対する回答を次の講義で行いますが、その時に説明を求めることがあるので、十分復習を行ってください。 本授業の単位修得には90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 $\text{授業時間60時間（4時間} \times 15\text{回）} + \text{自己学習時間30時間（2時間} \times 15\text{回）} = 90\text{時間}$ *以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	解剖学、生理学などの基礎医学の復習をするとよく理解できます。特に解剖学の筋・骨・神経は重要で、筋の起始、停止、神経支配、そして作用を全て理解し、覚えることが重要です。運動学の理解はこの解剖の知識が基礎となります。解剖の授業に加え、自主的にすべての筋について覚えて講義に臨んで下さい。また、同時期に肉眼解剖学実習が開講されているので、相互の授業を予習・復習として活用してください。 「県内大学履修科目」及び「市民開放授業」として履修希望する方は、事前に希望等（日程など）をご相談下さい。 オフィスアワーとメールアドレス 百瀬：保健学科南校舎4階 月曜日12時～13時、kmomose@shinshu-u.ac.jp 佐賀里：保健学科南校舎2階 随時（要事前連絡）、sagaria@shinshu-u.ac.jp